

おおぞら

第23号

・発行
安来地区保護司会

・事務局
やぶぎ更生保護サポートセンター
広瀬町広瀬 802
TEL (0854) 26-4181
題字 佐々木 實



三重塔を包む清水寺の紅葉 (写真提供：藤島義信)



松江保護観察所 所長
穂坂 英樹

平素、安来地区保護司の皆様には、日夜分け隔てなく保護観察対象者の改善更生にご尽力を賜っており、更生保護女性会員、協力雇用主の皆様には、保護司の皆様と連携した法務省主催「社会を明るくする運動」を始め、犯罪や非行のない明るい社会づくりのために地道に活動が続けておられることに心から御礼を申し上げます。

さて、令和2年3月、安来市及び安来市社会福祉協議会により策定された地域福祉計画・地域福祉活動計画(第3期)(以後、「第3期計画」という。)によりまず、超高齢化・人口減少社会の本格的な到来と複合的な支援を必要とする人の増加に伴い、「地域共生社会」を理念とする地域づくりが提唱されています。この至

高とされる「地域共生社会」では、市民が、様々な生きづらさを抱える人々への支援を地域の課題として、自分事のように主体的に理解し、これらの課題解決に向けて、それぞれの立場で取り組むことにより、地域の連帯性がより強化され、市民個々の暮らしと生きがいにより充実し、地域社会全体の更なる発展につながっていくと考えられます。

一方、罪を犯した人々や非行をした少年の中にも劣悪な生い立ちや境遇があり、その立ち直りに向けて自力で解決することは困難なことが多くあります。

このようなときに、安来市当局のご尽力と市民各位のご理解ご支援によりまして、再犯防止推進計画が「第3期計画」に包含されることとなりました。安来地区更生保護関係者の皆様とともに心から感謝の意を申し上げます。

市民の皆様には、地域の更生保護関係者が、「地域共生社会」実現に向けた重要な役割を担っていることをご理解いただき、それぞれの立場で更生保護活動へのご協力をお願い申し上げます。

「立ち直り」を支えるために

安来地区保護司会

会長 秋間 近夫

本年度は、全く予想すらしなかった新型コロナウイルスによって、あらゆる行事やイベントが中止になりました。

第70回「社会を明るくする運動」も全県下で集会は中止となってしまいました。安来市でもアルテピアで7月に開催を予定し、市民の皆様に向けて犯罪を認識して頂くため、刑務所で作成された物品の矯正展を同時に催す予定で、松江刑務所の担当官等と打合せを行っていましたが、中止となり残念でした。来年度は是非とも矯正展を実施したく考えています。

今、更生保護の世界でも問題となっているのは、再犯率の増加です。刑法犯の検挙数はありがたいことに毎年減少傾向ですが、出所者で再度犯罪を犯す再犯率は年々増加し48・8%にもなっています。

2人に1人が刑務所に逆戻りの状態です。受刑者の大部分は、もう二度と犯罪

はしないと心に決めて出所するのですが、現実はそのようになっていない状況です。理由は一、仕事がない。住むところがない。一、高齢者である。障害がある。一、薬物依存がある。一、相談する人がいない。等々です。再犯が防止出来れば、刑法犯罪は大幅に減らすことが出来るため、国は平成28年に「再犯の防止等の推進に関する法律」を施行し、国、地方公共団体、関係する民間団体が緊密に連携し、総合的な施策と実践について取り組みが行われはじめています。

安来市の保護司会で令和2年7月現在担当している対象者の件数は7件、保護司数に対する担当率は21・2%です。松江市が41・4%、出雲市が51・7%に比べれば安来市の近年の傾向は地域社会の安全安心が、市民と関係機関の努力で保てている本当にありがたい地域であると



いえます。

しかし、最近の犯罪の内容は以前とは大きく変わった部分があります。以前は目に見える犯罪が多かったのですが、最近ではSNSの悪用や薬物による事件等、外部から解りづらい事件が増えてきています。そのため、犯罪予防も保護司や更生保護女性会、協力雇用主だけで無く、他の民間団体の民生委員、青少年育成連絡会議、少年補導委員連絡会議、学校、教育委員会等が相互に情報提供を行い、行政と一体となった活動が最も効果があり、必要とされています。

保護司は犯罪を犯し、刑に服した人たちのために活動をしています。が、「犯罪が起きない地域社会」、「二度と犯罪を起こさせない地域社会」の実現に向け、市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

メッセージ伝達式

今年度は、コロナウイルスの影響で例年実施していた社明大会が中止になりました。昨年度から刑務所の矯正展も合わせて実施するよう計画を進めてきましたが、不測の事態に断念せざるを得ませんでした。

大会は中止となりましたが、メッセージ伝達式を7月3日に行いました。松江保護観察所長と安来地区保護司会からは会長、副会長、事務局が大会実行委員長の市長を訪問しました。観察所長から市長へ総理大



臣メッセージを伝達していただきました。併せて「青少年の非行・被害防止全国強調月間」のメッセージが安来警察署長から市長へ伝達されました。

その後、市長から住みよい街づくりのために、関係団体が連携して頑張ろうとの言葉をいただきました。

来年は、いつものように大会が開催できることを願うばかりです。

「社会を明るくする運動」作文コンテスト

第70回社会を明るくする運動作文コンテストを小中学校に募集したところ、例年以上に応募がたくさんあり、小学校8校35作品、中学校4校16作品の出品がありました。審査の結果、小学校の部で十神小学校6年の大屋穂波さんが、「社会を明るくする運動」島根県推進委員会委員長賞（1位）に、赤屋小学校の近藤志穂さんが島根県更生保護女性連盟会長賞にそれぞれ選ばれました。おめでとうございます。

島根県推進委員会委員長賞

誰もが平等な社会へ



安来市立6年
十神小学校
大屋 穂波

最近、耳にしたニュースで特に私の心に残ったのは、5月にアメリカ合衆国で黒人男性が白人警官に膝で首を圧迫されなくなった事件です。

私はこの事件を知った時、悲しみと同時に怒りがこみ上げてきました。そして同じ人間なのに肌の色や民族、宗教などの自分の偏見

で他人を差別するのは不平等だと思いました。しかし、私も以前に人としてやってはならないことをしたことがあります。

私の市では毎年、オーストラリアのブリスベンのある小学校と交換短期留学をしており、私の家も4年程前から留学生の受け入れをしています。それは、初めて留学生の受け入れをすることになった小学校低学年の頃のことです。ホームステイの受け入れ説明会で私の家に行ってくる子の肌が黒いとわかった時、私は見た目で

「白人の子がよかったなー。」と言ってしまいました。低学年の私は、それが相手を傷つける言葉だなんて想像もしていませんでした。

しかし、実際会ってみると、とてもフレンドリーで優しい子で

た。私は、白人だから文化がすぐれている、黒人だから劣っているという差別をしていた事に気が付き、自分自身を恥じました。彼女の両親はパキスタン出身で、現在はオーストラリアで公認会計事務所を経営しています。彼女自身もすぐく努力家でした。その後私の家には、もう二人の女の子が泊まりにきました。どの子も個性豊かな人達で、その特技や考えを知ることがとても勉強になりました。

この失敗から私は、それぞれの国にそれぞれの国民性があり、肌の色には関係ないすてきな個性があることを学びました。私は世界の人々ともっとつながるために、毎日英語学習をしています。何度かスランプもありました。今はそれに加え、週1回小学校に来られるALTの先生と英語で会話しています。私は先生と会話するのがとても楽しみです。

世界では人種差別だけではなく様々な差別が残っています。

私が、特に深刻だと思ったのが更生者への差別です。更生者は、周囲の人の支援があるからこそ、立ち直りの道に進めるのだと思います。支援がなければ、更生者は、更生できず、「負のサイクル」におちいって、再犯につながってしまいます。そうならないためには、更生者を受け入れる雇用主や周り

の人の温かい目が必要です。例えば地域行事にさそってみたり、あいさつしたりするだけでも、更生者は人と「つながり」を持つことができます。

私は差別をなくすためには二つのことが必要だと思います。一つ目は差別について正しく学ぶことです。差別について学ぶことで、

「あの人は悪い人だ」
「あの人は劣っている」

という偏見をなくし、地域全体の「輪」をつくることができるからです。二つ目は過去にあった差別について語りつくことです。差別を二度とくり返さないように伝えることは、未来を平和にすることに繋がります。私は、この二つをしていくことで差別はなくなっていくと思います。

私は一人一人の個性を認め合える世界になってほしいです。差別をなくすために今の私にできることは少ないかもしれないけれど、色々な人と関わることで、自分の幅を広げようと思います。そして人と人が手をとり合い、助け合える社会を築き、やがては世界平和にこうけんできる大人になりたいです。



島根県更生保護
女性連盟会長賞

犯罪や非行の ない社会をつくる ために



安来市立
赤屋小学校6年
近藤 志穂

今、世の中ではたくさん
の犯罪がおきています。こ
の間、ついに私のすむ地域
でも事件がおきました。そ
の事件の話を聞いて私はお
どろきました。今まで私の
身近な所で犯罪や事件はお
きていなかったからです。
ニュースなどで犯罪や事件
のことを聞くことはありま
したが、自分には関係ない
と思ってきました。でもそ
の事件があったことによっ
て犯罪がとてもし身に感じ
るようになりました。そこ
で私はこう思いました。「な
ぜ犯罪が起きてしまったん
だろう。」「犯罪をなくすた
めにはどうしたらいいんだ
ろう。」と。そして私は犯罪
をなくすために今、自分が

できることを考えました。
考えたら自分にもできるこ
とは三つあると思いました。
一つ目はたくさんの人に
笑顔であいさつをすること
です。人に笑顔であいさつ
をすることによって相手は
うれしい気持ちになると思
います。うれしい気持ちに
なると自然に笑顔になりま
す。地域に笑顔があふれた
らその地域はとも明るく
なるんじゃないかなと思
いました。明るい地域をつく
っていくことは犯罪をなくすこ
とにつながると思います。こ
れからは自分から積極的に笑
顔であいさつをして明るい地
域をつくっていきます。
二つ目はゴミが落ちていた
ら自分から進んで拾うこと
です。道路などに落ちてい
るゴミを自分から拾うこと
によってみんながとてもし
良い気持ちになれると思
います。やはり、ゴミなどが
たくさん落ちていると気分
は決して良くはありません。
それに比べゴミなどが落ち
ていないと気分が晴れ犯罪
を、今からしようと考えて
いた人も、心が洗われ、考
え直すかもしれません。ふだ
んから落ちているゴミを拾
うことはもちろん、清そう活
動やボランティア活動に積極

的に取り組むことも大切に
していきたいと思っています。
三つめは、人の良い所を
たくさんみつけるとい
うことです。私達のクラス
では「ほめほめシャワー」と
いう活動を毎日しています。
ほめほめシャワーとはその日
の日直の良い所やすごい
と思う所などをクラスの
みんなが言う活動のこと
です。人にほめてもらうこと
で大きな喜びを感じること
ができると思います。この活
動を通して他人に幸福感や喜
びをあたえることができる
ので、これも人を大切にする
ということの中にふくま
れると思います。
人を大切にして生きてい
くということは犯罪や非行
のない社会を作っていくこ
とだと私は思っています。
いきなり犯罪や非行をな
くすのはとてもむりだと思
います。みんなが一人一人
今、自分ができることをや
って、それが積み重なった
ら犯罪や非行のない明るい
社会が実現するのだと思
います。なので私も今から
自分ができることを積極
的にやっていきたく
いです。そして、人を大切
にして、人を大切に生
きたいと思っています。



冬立つ伯太町安田の自然（山々）（写真提供：原瀬美規）

更けたより

安来地区の活動

安来地区更生保護女性会

会長 山崎光恵

今年度から安来地区
更生保護女性会の会長
に就任致しました。

今年度は、コロナ禍
により、何事も中止で
思うような活動が出来
ませんでした。

例年行っている総会
も、書面決議、研修会
も中止を余儀なくされ
ました。

幸いにも、保護観察
所の方から助言をいた
だいて、布製のマスク
を作り、更生保護施設
「しらふじ」に、届け



ることが出来ました。
材料が手に入りにく
い中、何とか協力し
合い、材料を調達し、
100枚のマスクを縫
い上げました。

まだマスクが品薄の
頃でしたので、大野理
事長に手渡し喜んでい
ただけました。

10月26日に講演会を
実施しました。コロナ
予防対策をしながら、
無事終了致しました。

保護司や人権擁護委
員をしておられる、池
上幸秀氏にお
話をしていた
だきました。

これからも
会員で力を合
わせ、新しい
活動にも取り
組んでいきたく
思います。



広瀬

微力ながら

広瀬地区更生保護女性会

会長 小林みず江

私たち広瀬地区は、年一回
の総会、2年に1回の研修会、
愛の図書集の募金集め、本の読
み聞かせ、放課後の子ども見
守隊を各地区で行う程度の活
動です。昨年研修で訪れた松
江刑務所の事ですが、職員

伯太

下校時の見守り

伯太地区更生保護女性会

副会長 小松原朋子

伯太の中心地だった母里地
区も時代の流れの中で児童数
は年々少なくなり、現在は80
名余りです。

私たち更女は他の団体と交
替で、年4、5回ですが集団
下校時の見守り活動をしてい
ます。下校は1、2年生は2
時40分、3年以上は3時40分
ですが半数程度は児童クラブ
に行き、遠くの子は保護者が

迎えに来るのを図書館で待つ
ています。帰路はそれぞれの
方向に別れて何人かで途中ま
で話をしながら一緒に歩いて

皆様に快く迎えて頂き、いろ
いろ案内頂き、帰りには、会
員の皆様は入所の方が各地で
作られた財布、まな板、かご
等々持ちきれないほどの買い
物をして帰宅しました。毎日
大切に使っています。毎日、こ
んな素敵な作品が作れる人たち
だから、立派に更生出来ると
確信しています。微力ながら
私たちにお手伝い出来たらと
思います。

帰ります。見守りすることに
より、子どもたちとも親しく
なり、大切にされているのだ
と感じてもらえたらと願って
います。

更女としての柱である「愛
の募金」と共に続けていけた
らと話し合っています。



退任にあたって

安来の安寧を願って

安達紘二

今年の5月末で平成20年か
ら12年間務めてまいりました
保護司の職務を、退任いたし
ました。

皆様には大変お世話になり
ました。厚く御礼申し上げます。

この間に保護司として担当
した事案は、数件で延べ7年
間でありました。他の職務で
は出来ない貴重な経験をさせ
ていただきました。安来地区
では幸いな事に、同時期に何
件も担当するような事例はあ
りませんでした。

大都会周辺では、同時に一
人が何件もの事案を担当する
事が珍しくなくとも聞きま
す。自宅に火をつけられたり、
傷害を負わされたりする事例
も見られ、大変な職務だと思
います。

幸いな事に安来地区では保
護司として担当する事案が少
なくて済んでいます。安来市
の治安が良い事の証ではない
でしょうか。これからも皆様
のお力で「安寧な安来市」の
為にご奮闘いただきますよう
お願いいたします。

第20回「どじょうのつかみ大会」

この大会は平成13年度から青少年の親善と健全育成を図る目的で安来地区保護司会が「社明運動」の一環として共催しています。今年にはコロナウイルスの影響で、各競技とも実施するに当たつていろいろと苦慮されたようです。コロナ禍で例年行われていた各種大会が中止となり、悔しい思いをしてきた子どもたちに活躍の場を設けてやりたいという熱い思いから実施されました。今回は、安来市を中心に山陰各地からスポーツ少年団員が集まり熱戦を展開しました。

野球大会



剣道大会

規模を縮小して11月15日に開催予定です。

バレーボール大会

従来通りの大会は実施できないですが、代替大会を実施する予定です。

今年にはコロナウイルスの影響で、参加チーム数が減りましたが、10月17・18日にあらえつさ球場を主会場に実施されました。その結果、優勝は赤江ファイターズと城西レッドスターズ、準優勝は伯太フレンズと乃木ライオンズでカップとメダルが授与されました。



顕彰式典で受彰

11月19日に松江市総合福祉センターで令和2年度島根県更生保護顕彰式典が開催され次の方々を受彰されます。
おめでとうございます。

法務大臣表彰

安部 良江

中国地区

更生保護委員会委員長表彰
倉本 洋子

中国地方

保護司会連盟会長表彰
葉田 茂美

松江保護観察所長表彰

藤島 義信

島根県保護司会連合会

会長表彰
上田 宏充

安来地区保護司会 役員名簿

(令和2年11月1日現在)

- 会長 秋間近夫(伯太)
- 副会長 矢田博美(安来)
- 常任理事 小池清水(広瀬)
- 理事 岩崎哲久(安来)
- 原 玉子(伯太)
- 池上幸秀(広瀬)
- 理事(事務局長) 小村修司(安来)
- 理事(協会担当) 安部良江(広瀬)
- 倉本洋子(安来)
- 岩田京子(広瀬)
- 監事

保護司の異動

退任保護司

令和2年5月31日

安達 紘二(安来)

新任保護司

令和2年6月1日付

原瀬 清正(安来)

部会名簿

(令和2年11月1日現在)

- 総務部会: 秋間 近夫, 矢田 博美, 原 玉子, 安部 良江
- 研修部会: 岩崎 哲久, 安達 紀雄, 勝部 幸治, 山崎 幸子
- 犯罪予防部会: 上田 宏充, 細田美佐子, 柏 真知子, 岩崎美枝子, 藤島 義信
- 協力組織部会: 宮廻 郁丸, 原瀬 清正, 伊達山裕子, 倉本 洋子
- 小池 清水, 榊野 光範, 少林 浩道, 小村 修司
- 山崎 道弘, 仙田 芳弘, 永島 均, 葉田 茂美
- 藤井 裕子, 今井 昭紀, 細田由紀子, 山崎 光恵
- 遠藤 史則, 佐瀬 宏洋, 岩田 京子, 池上 幸秀

訃報

当保護司会副会長を長らくお務め
ただただおりました上田眞實様が
10月4日に逝去されました。
心からご冥福をお祈り致します。



つるし柿